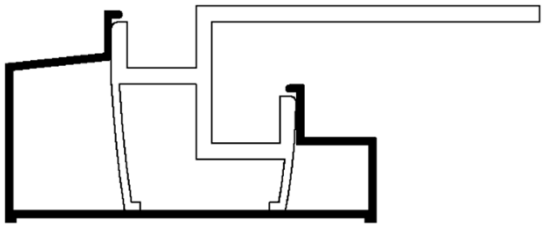
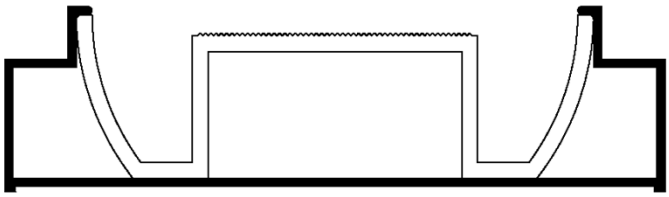
アルミ下端笠木
施工手順書

アークラインシリーズ

KU-70，125（押出形材）

Ver1.2022.04





白水興産株式会社

アルミ下端笠木に関する注意点　(KUシリーズ)

以下の当社標準仕様をご確認ください。

1.定尺寸法

本体　　L=4000

コーナー　500×500

2.固定方法

下地材　　山形鋼L-65×65×6.0t

アンカー　ユニクロ六角頭ドリルねじ6×35(NB-19)

3.固定間隔

アルミ下端笠木のブラケット最大間隔は1300mm以内

必要ブラケット数　(個/本：定尺4m)

品番	ブラケット数
KU-70	4
KU-125	4

施工時の注意点－ブラケット取り付け編

・作業前に必ず施工図を確認してください。

・施工図を基にジョイント位置、ブラケット位置を下地材にマーキングしてください。

・出入をみて、アンカー位置の墨出しをしてください。

・ブラケットを抑えながらドリルねじ(NB-19)をインパクトドライバーにて固定してください。

・KU-125の場合は、t=5.0mmのU字スペーサー1枚、又はt=2.5mmのU字スペーサー2枚以上を必ずブラケット毎に共に固定してください。

・取り付けはコーナー部より始めてください。

・ブラケット同士のレベルと同時にブラケット自体の短手方向の水平も必ず取ってください。

〔下地が水平ではない場合〕

・下端笠木表面に打痕が出る場合があります。

・レベル調整は10mm以内にしてください。それ以上の時はお問い合わせください。

・ブラケットに水糸を張って水平と高さを確認してください。

・ブラケットは幅(50mmの方向)を必ず水平にしてください。

施工時の注意点－下端笠木本体取り付け編

・本体取り付けはコーナー部より開始し、施工図に従い取り付けてください。

・本体の取り付けは手でおこなってください。物で叩く等はしないでください。
※無理な取り付けは傷つきや事故の原因となります。

・切断が必要な場合は現場の状況に応じて養生を行った上で作業してください。

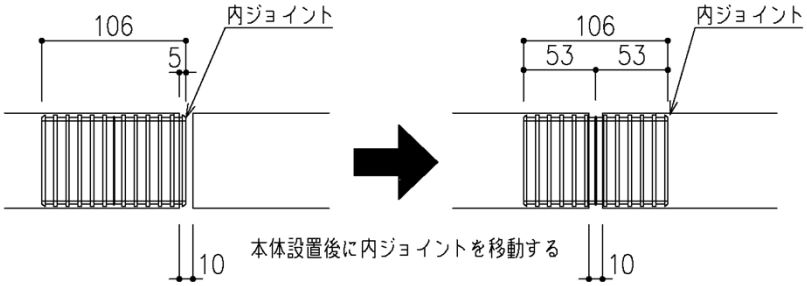
・短尺(1,200mm以下)の本体取付時でも2個以上のブラケットを設置してください。

・切断面はヤスリを使用し、バリ取りをおこない、損傷の低減に努めてください。

・取り付け後は完全にかんごうされているかを目視だけでなく手で触って確認してください。

・内ジョイントを正しい位置に取り付けてください。（図1参照）

・養生フィルムの剥離は現場に確認後におこなってください。
※ただし長期間放置するとフィルムの固着や粘着残りの恐れがあります。



※ブラケットに笠木本体かんごう後、
ジョイントはマイナスドライバー等で
横移動させ中心にする事。

図１　**ジョイント部平面図**

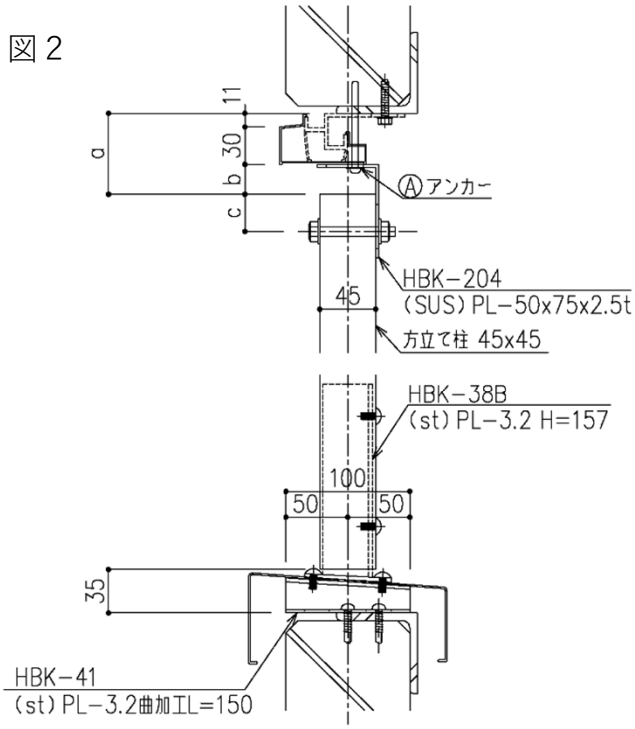
手すり付き笠木の方立柱が取り付く場合

アルミ下端笠木施工後、アルミ手すり付き笠木を下階に取り付ける場合、方立柱にて補強する時は、方立柱の位置を優先してください。方立柱に合わせて下端笠木を割り付ける事となるため、下端笠木を施工する前に方立柱の位置を確認してください。ジョイント位置は方立より250mm以上離してください。

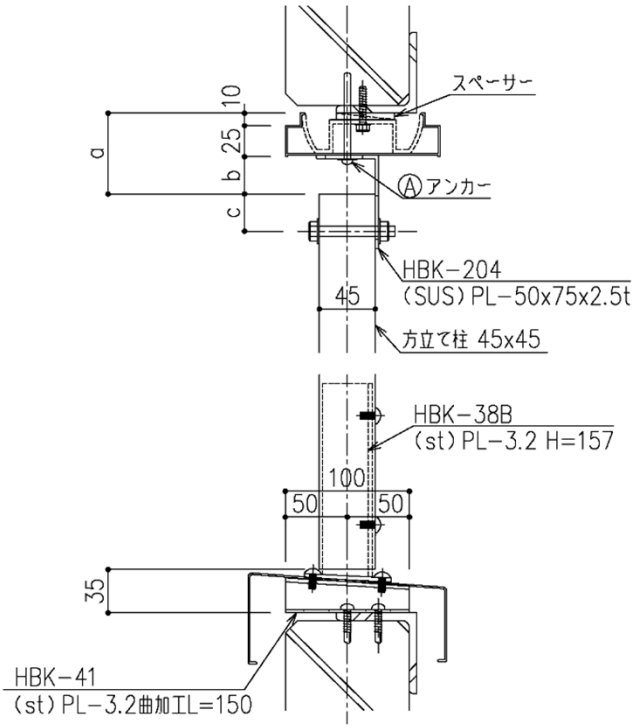
方立柱の強度の為、方立柱より左右に100mm離れた所にブラケットを取り付けてください。(図2.3-立面･平面図参照)

方立柱は下端笠木に取り付けるのではなく、図2.3の様にアンカー(A)は下端笠木を貫通し下地材に固定してください。

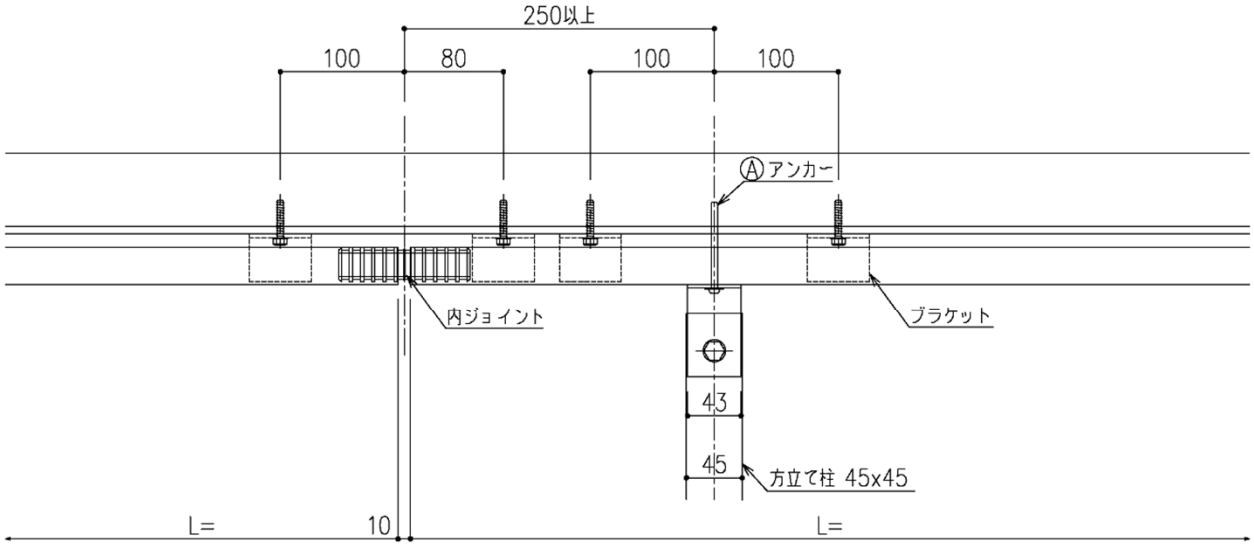
図 2



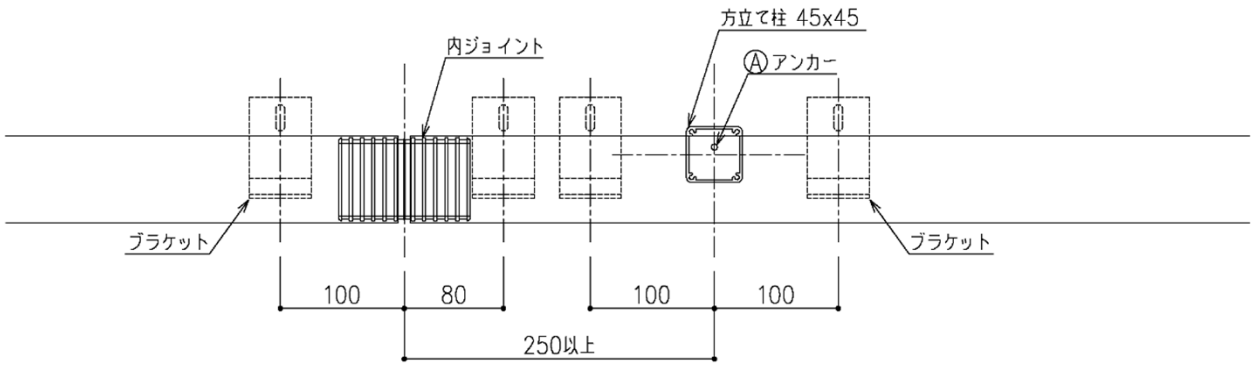
KU-70　方立シングル固定断面図



KU-125　方立シングル固定断面図

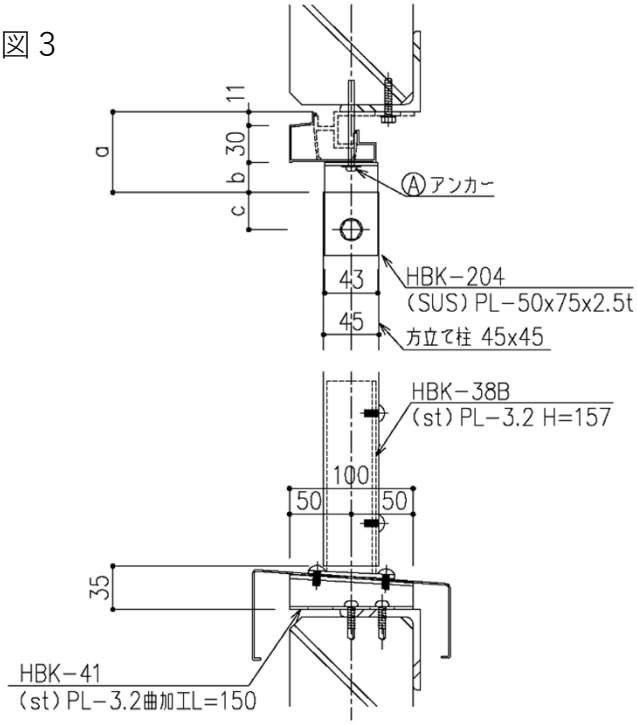


KU-70　方立シングル固定立面図

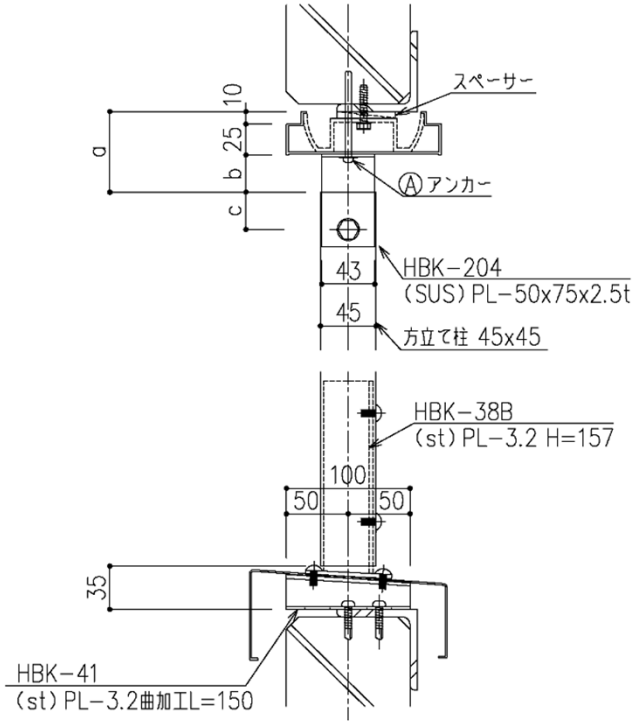


KU-70　方立シングル固定平面図

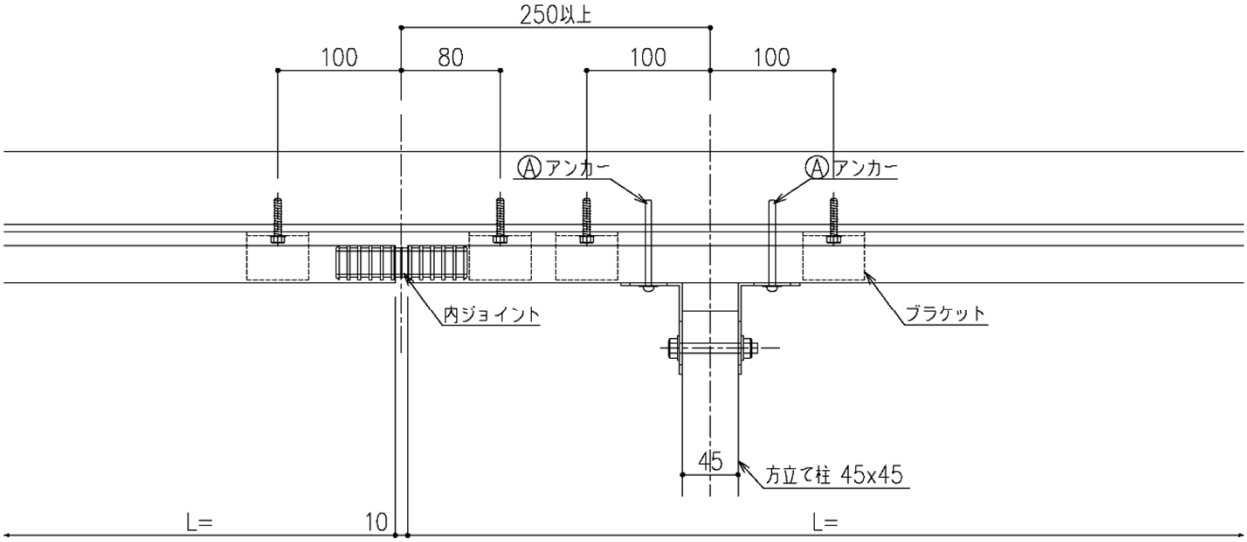
図 3



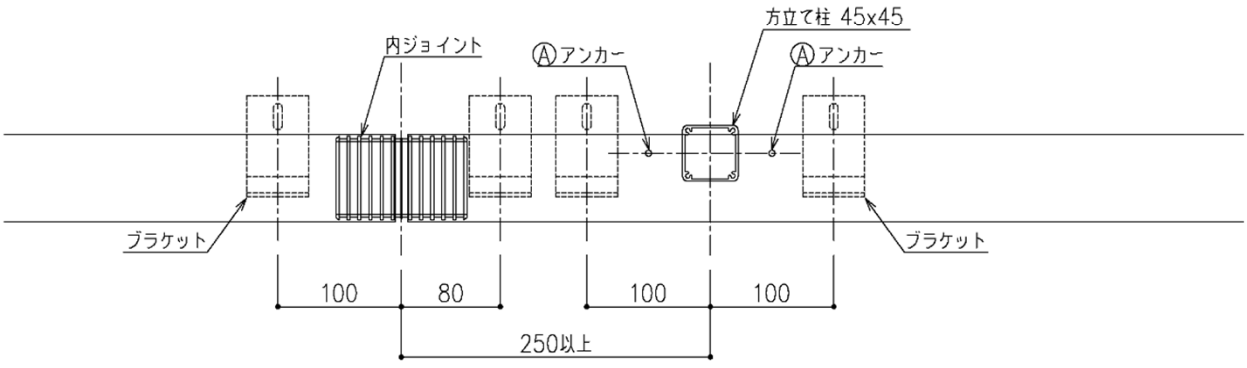
KU-70　方立両側ダブル固定断面図



KU-125　方立両側ダブル固定断面図

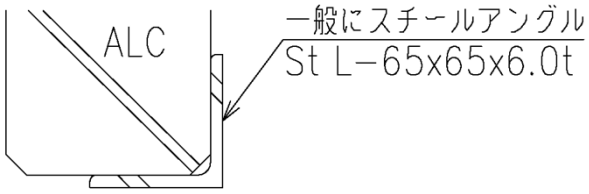


KU-70　方立両側ダブル固定立面図



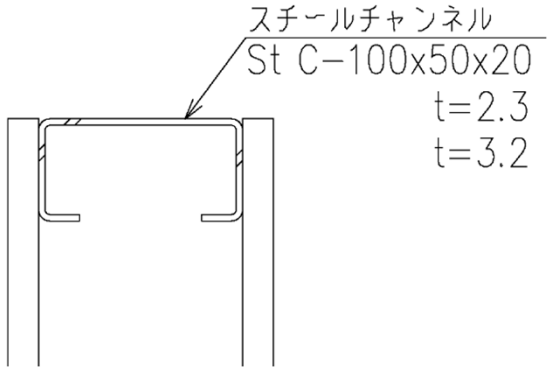
KU-70　方立両側ダブル固定平面図

下地がスチールの時の取付ねじの選定について

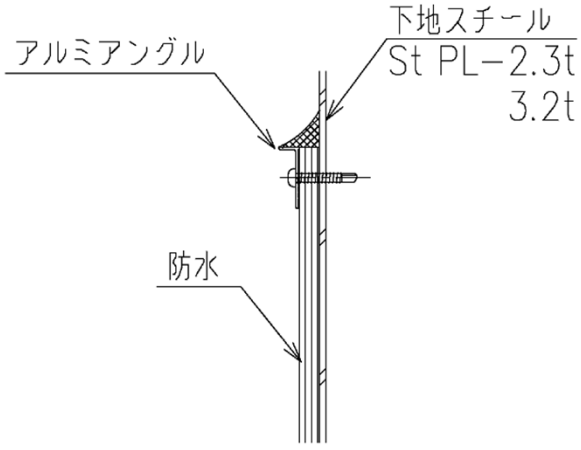


※t=6㎜スチールアングルに下端笠木、天端笠木を取り付ける場合NB-19(ヘックス六角ドリルねじ６×３５ユニクロ)を使用する。

※ユニクロにする理由はt=6㎜スチールアングルに対しては負けてしまうのでユニクロ(鉄)ビスを使用する。



スチールチャンネルt=2.3、3.2の場合
笠木取付の時
・B-540H　SUSテックスドリルねじ(六角)使用
・B-535　　SUSテックスドリルねじ(なべ)使用



アングルをスチール下地t=2.3、3.2に
取付ける場合
・B-535　　SUSテックスドリルねじ(なべ)使用

※下地スチールがt=3.2を超える時はユニクロ(鉄)ビスを推奨